

「さらにまさる道」

1.はじめに

- ・ 神の賜物としての「愛」について考える。
- ・ 現実の人と人との関わり、または教会共同体の交わりについて考える。
- ・ 12章～14章は賜物について（教会づくり）語っている。
- ・ コリント教会の現状
 - ・ コリント教会は使徒の優劣をあげつらうだけでなく（1：12以下、4：3、9：3）教会員どうしの間でも賜物、能力に優劣をつけ相互に誇り、見下げる傾向があった。また「預言、異言、知識」が重視され、愛が軽視された。（3：1）

2. 本文

- ・ 教会づくり。
 - ・ 教会はキリストのからだであり、その頭はキリストです。（エペソ1：22，23）
 - ・ ロマ12：4，5 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きをしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。
 - ・ キリストのからだを創るために、すべての人に賜物が与えられる。（エペソ4：7，8）
 - ・ ガラ5：22，23 しかし聖霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制。
- ・ 4～7節

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。

 - ・ 解釈
 - ・ 人のした悪をおもわず、
 - ・ 不正を喜ばずに～
- ・ 13節 「終わりの日」をみすえて、信仰、希望、愛と結論する。
 - ・ 愛が霊の賜物にかかわりあっていながら、なおかつ霊の賜物とは異なっている。
 - ・ 霊の賜物が教会成長のために与えられるとは対照的に、愛は永遠なる御国の本質である。

3.適用

- ・ 使徒2：43～47は分かち合うコイノニアをいっていますが、私たちにとって分かち合いは「聞く」ということではないでしょうか。
- ・ 身近なところから「愛」を実践する。
 - ・ 聞くことは愛である。
 - ・ 思いやりは相手の成長をうながす。
 - ・ 聞くことはやすこと。